

みどいの学び場「秋冬に行う身近な木の手入れ方法」

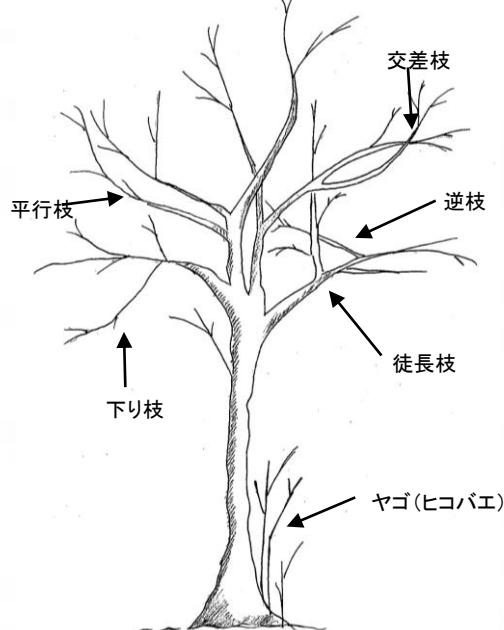
令和2年11月5日(木)、6日(金)開催

講師は、岸本昭雄先生(造園技術者)です。

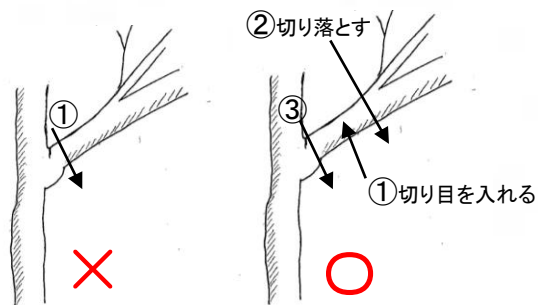
I 前半は、テキストを使って1時間ほど講義を行いました。テキストだけでなく木の枝(シラカシ)を使って正しい剪定の仕方を分かりやすく説明していただきました。



<①切った方がよい枝>

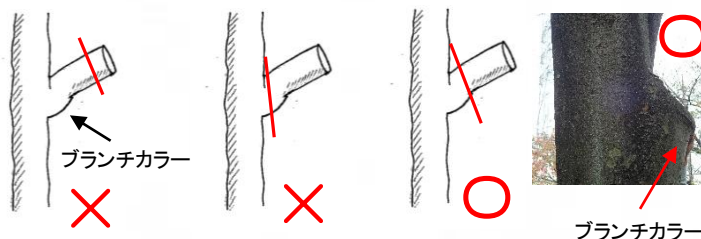


<②二段切りをしましょう>



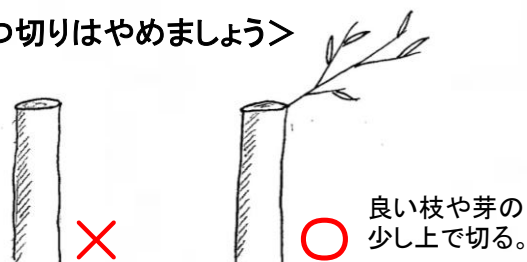
いきなり枝を切ってしまうと、重さで枝が裂け、そこから腐朽菌が入ってしまうので、必ず二段切りをしましょう。

<③ブランチカラーを残して切りましょう>



ブランチカラーを残すようにしましょう。○の位置で切ると、切り口がきれいに保護され、腐朽菌が入りづらい。

<④ぶつ切りはやめましょう>



ぶつ切りにしてしまうと樹形が乱れてしまいます。切った枝に葉を残すようにしましょう。

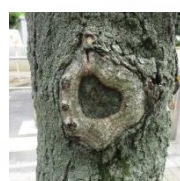
まとめ

- ★常緑樹は、真冬の剪定は避ける。
- ★落葉樹は、葉が落ちてから剪定する。
- ★伸びる方向を考えながら剪定する。
- ★腕ぐらいの太い枝は剪定した後、必ず癒合剤(切り口を保護する薬剤のこと)を塗るようにする。
- ★自分が管理できる高さにすることが大切
- ★花や実を楽しむ場合、花芽が形成される時期に気を付けて剪定する。

II 後半は、中央公園に行って実際に剪定したり、剪定の良い例、悪い例を確認したりしました。



保護がうまくできず傷んでいる木



切り口がきれいに保護されている木